

大会特別規定

※太ゴシックの文章は、北海道大会のみ適用。

【競技を行うにあたって】

1. 1チーム9名からの参加を認める。
2. 得点差によるコールドゲームは、『開催要項 12. 競技方法(2)』により5回終了以降7点差以上とする。
また、試合時間の制限は行わない。
3. 7回を完了して同点の場合は、延長戦は行わず、直ちにタイブレーク方式により勝敗を決定する。
タイブレーク方式
継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の走者とする。
すなわち、0アウト・二塁の状態にして、勝敗が決するまで続行する。
4. 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。
※5回終了前に降雨、暗黒及びその他の事情で試合続行不可能となったときは、再試合とする。
また、5回を過ぎ正式試合になって同点のときは特別継続試合として行う。
5. 試合会場の施設状況により、会場特別ルールを設定することもある。
6. 用具装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に怠りなければならない。
7. 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。
8. 選手はサングラスを使用しない。ただし、選手の健康上の理由**および球場の条件**によって大会本部で協議し認める場合もある。

【試合開始前】

9. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し決定する。
10. 打順表の提出は、その日の第1試合は試合開始予定時刻の45分前まで、第2試合以降は前の試合の4回終了までとする。ただし、第1試合の前に開会式がある場合や、勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、その都度本部で決定し連絡する。監督と主将は打順表を持参し、登録原簿と照合ののち、前の試合の4回終了時に球審立ち会いのもと攻守を決定する。**また、初戦のみ保護者代表者1名も参加する。**
 - ・ 参加申込書及び選手登録名簿提出後における選手の追加・変更及び背番号の変更は、監督会議で検討する。
 - ・ 雨天順延により、準決勝と決勝を最終日に行うことになった場合、決勝戦の開始時刻は、第3位表彰式後45分を目途とする。ただし、準決勝を2会場で行うときは、他の会場からの移動時間は、これに含まないことを原則とする。
11. シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - (2) 時間は7分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員（当該校生徒）をつけて行うことができる。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。
 - ・ 捕手はレガース、ヘルメット、プロテクター及びファウルカップを必ず着用すること。また、マスク、ヘルメット等は体から離さないようにすること。
 - ・ ボールを転がしたままにせず、ボールケース、かご、バケツ等も地面に置いたままにしない。
 - ・ 事故防止のため、球場内でノッカーにボールを渡す選手および補助員はヘルメットを着用する。
12. ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備が出来るまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。

【試合中】

13. 選手交代の申し出は、監督が行う。その際、背番号が見えるようにグラウンドコート類は脱ぐ。
14. ベンチ内でのメガホン使用は、監督に限る。
 - ・ コーチは、試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないこと。
15. 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
16. 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り、7球以内が許される。次回からは、3球以内とする。ただし、正捕手の装具準備時において2球を過ぎる場合、予備捕手は**野手にボールバックをコール**する。
17. **熱中症予防として**、4回終了時およびタイブレーク方式開始前に給水タイムとグラウンド整備（3分程度）を行う。
18. **WBG728℃以上の試合では**、熱中症予防のため、守備時間が長引いた場合、インニングの途中でも給水タイムを設ける。（20分を目安として本部で判断し、打者のプレイ完了後にタイムを設ける。）
19. 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、打順表の提出・攻守決定終了後、試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。
 - ・ その際、捕手は、レガーズ、ヘルメット、プロテクターおよびファウルカップを必ず着用するとともに、投球練習（捕手が座った状態）になったら、マスクを着用すること。マスク、ヘルメットは体から離さないようにすること。
20. 監督がマウンドに行ける回数の制限について「マウンドに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からフェールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
21. ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「20.」と同じ行為であれば回数に数える。
22. 監督が1試合にマウンドに行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、1インニングに1回行くことができる。
23. 監督が同一インニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合）は、投手は自動的に交代しなければならない。また、2度目の監督タイムで交代した投手は、他の守備位置につくことが許される。なおこの場合、他の守備位置についたときは、同一インニングには再び投手に戻れない。
24. 捕手または内野手が1試合に投手の所へ行く回数は、3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、2インニングに1回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。公認規則 5.10(m)(3)「サインの確認」であっても上記の回数を超えてマウンドに行くことはできない。
25. 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、タイブレーク方式となった場合は、1インニングに1回とする。
26. 守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。
27. 攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の1回とカウントされる。
28. 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
 - ・ 大会中の1日の投球数…100球
 - ・ 1週間の投球数…350球

【投球数管理運用】

- ① 試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
- ② ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
- ③ タイブレークになった場合、1日の規定投球数以内で投球できる。
- ④ けん制球や送球とみなされるものは投球数としない。

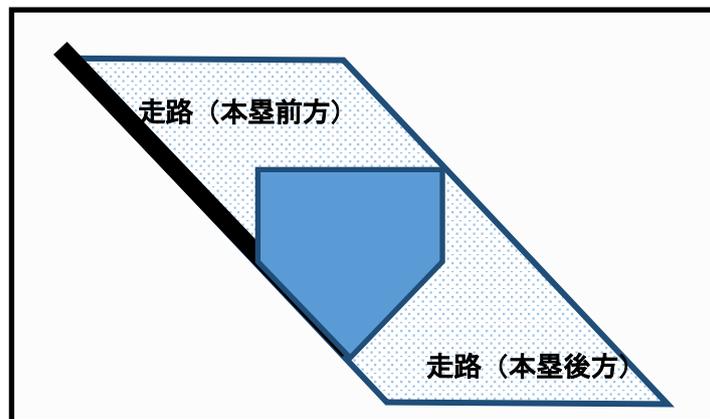
- ⑤ 投球数の管理は、大会本部が行う。
29. ルール適用に対する疑義の申し出は、監督または該当選手に限る。また、審判員の判定に対しては抗議できない。
30. 公認規則 5.10(d)原注〔前段〕「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他に守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない。」は、本大会では適用しない。
31. 公認規則 6.01(h)【付記】の適用について、中学校野球では、『ボールを保持しているときしか塁線上に位置することはできない』こととする。

【規則適用上の解釈】

- ① 走塁妨害を適用するのは、『あくまでも捕手のその行為がなければ、当然本塁に到達できた』と判断できる場合である。
- ② 捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず、瞬間的に「アウト」のコールをした場合でも、改めて「オブストラクション」の宣告をしない。
- ③ 走塁妨害適用外であってもそのような行為があった場合は、試合を停止したうえ、捕手に対して嚴重注意すること。

捕手を含めた野手がボールを保持する前に立つ位置は、次の走路以外の場所とする。

【本塁上における走路について】 下図参照



・本塁に関しては、走者が走り抜けることも可能なので、本塁の延長線上（後方）も走路とみなされる。このため、本塁をまたいで（本塁を開けている状態）位置することや、本塁の延長線上（後方）に位置することも走者との接触につながるため許されない。

- ④ ボールを保持しているときは、走路上に移動してタッグしてもよい。

※競技者必携 アマチュア野球内規⑩危険防止（ラフプレイ禁止）ルール参照

32. 大会に派遣されている競技委員長及び副競技委員長、北海道中学校体育連盟軟式野球専門委員会審判部長は、控え審判員と同じ資格を有するものとする。

【その他】

33. テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

※その他の装具について、大会本部に申し出て、けが等で必要と認められたときのみ許される。

競技上の注意事項

1. 選手の頭髪・身なりなどは中学生らしく、試合中はもちろんのことスポーツマンらしい態度で大会に参加すること。
2. 応援団については、監督が責任をもつ。
3. 応援団は次のことを守って応援すること。
 - ① 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - ② 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は、座っていることが望ましい。応援の切り替えは3アウト成立時とする。
 - ③ **学校名の入った横断幕を設置しても良いが、観客の視界を遮らない場所（観客席最後方）とする。**
 - ④ 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。
 - ⑤ 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
 - ⑥ 試合を妨害するような応援はしない。
 - ⑦ メガホンを使用してもよい。
 - ⑧ 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
 - ⑨ **応援席から投手の球種やコースを伝えることはしないこと。**
 - ⑩ スタンドや客席（芝生席）にテントを張ることは禁止する。
4. 監督等の服装については、次の通りとする。
 - ① 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は30番、コーチは29番、28番の背番号をつける。
 - ② 監督・コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は考慮する。
 - ③ サングラスは使用しない。事情がある場合は大会本部の許可を得る。
5. 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
6. 医療を目的としたサポーター等の使用は認めるが、強化目的の使用は認めない。
※大会本部に必ず申し出ること。
7. 試合開始・終了時の礼は両チームが同時に行う。また、相手チームと別に審判員に礼をすることはしない。
8. 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
 - ① 無用なタイムをとることを慎む。
 - ② 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
 - ③ 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。
 - ④ **打者は、バッターボックス内でサインを確認し、速やかに打撃姿勢をとること。その際、ラインを故意に消したり、ラインに足をかけたりして構えないこと。**
 - ⑤ **バットの受け渡しは、手渡しで行うこと。打者走者は四死球等のとき、バットを投げずにその場に置くこと。**
 - ⑥ **走者は、スライディングのとき、スパイクを上げないこと。**
 - ⑦ **守備側の控え選手は、ベンチ内またはベンチ前で待機すること（インング間練習の補助は除く。補助は最低限の人数とすること）。**
9. 各チームの監督は、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。
10. 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。

北海道中学校軟式野球大会 確認事項

令和3(2021)年度第72回北海道中学校軟式野球大会に関して、以下の内容に沿って大会を運営いたします。出場校および役員の皆様は事前にご確認いただき、円滑な大会運営にご協力をお願いいたします。なお、ここに記載以外の各会場に関する事項および運営時間に関する連絡事項は、出場校への文書連絡および監督会議時にご連絡いたします。

第72回北海道中学校軟式野球大会 事務局

1. ユニフォームの着用について

- (1) 見苦しくないように着用する。
 - ① 上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
 - ② パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
 - ③ 肩の部分をたくし上げない。
- (2) ユニフォームの上着に個人名は入れない。またノースリーブの上着は認めない。
- (3) ストッキングについて次の通りとする。
 - ① 危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
 - ② ハイカットストッキングは禁止する。

公益財団法人 全日本軟式野球連盟規程細則には、「ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、他のものをつけてはならない。」と記されている。本大会では特に規制はしないが、この規定に沿ったものを推奨します。

2. ユニフォーム以外の用具等について

- (1) ヘルメットはSGマークのついたものを、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの(例:保護パット不装着、ひび割れ等)は使用できない。
- (2) 捕手の装具は連盟公認のマークのついた物を使用する。マスクでスロートガード一体型の場合は、スロートガードをつける必要はない。
- (3) 野球用の手袋で打者・走者・投手以外の守備に使用できる。~~リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。~~色は白・黒の単色のみとする。**ノッカーも同等とする。**
- (4) レッグガード・エルボーガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、攻守の決定時に大会本部に申し出て許可を得る。
- (5) 滑り止めスプレーの使用を禁止する。
- (6) リストバンドは使用できない。また、サポーター(手首や指を固定、保護する目的の物)の使用は医療目的に限り、試合前に大会本部に申し出て許可を得る。

※スパイクの表面カラーは、(公財)日本高等学校野球連盟の用具規程に準じ、ブラックまたはホワイト一色とする。

なお、チーム内での甲被カラーのホワイト、ブラックの混在については、2021年は可とする(指導者も含めて)。チーム内で統一するか否かについては、2022年シーズンへ向け2021年度中に検討することとする。

3. その他の事項

(1) スタンドおよび球場外の指定された場所以外へのテントの設営は禁止する。

(2) ウォームアップに関して

ア 球場内でのウォームアップの時、芝生のところはアップシューズのみとする。

イ 球場内でのウォームアップ人数は以下のようにする。

- ・ 登録メンバー（選手、監督、コーチ）と補助員3名のみとする。
- ・ ユニフォーム着用者以外のグラウンド内への立ち入りを禁止する。

ウ 球場内アップの内容

- ・ ハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティングまでとする。

※芝生では、ノックを含めてバッティング行為を禁止する。

エ 球場内練習時の服装はユニフォームを原則とする。第1試合チームは打順表の交換まではチームで統一されたTシャツも可とする。（※アンダーシャツのみは禁止）

エ グラウンドに出る際は、必ず着帽する。

(3) マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないもののグラウンド内への持ち込みは禁止する。

※ネクスト・バッタースボックスには、バットは1本まで持ち込むことができるが、プレイの状況に注意し、適切な処置をすること。

(4) 補助員の服装は選手と同じユニフォームとする。準備（用意）できない場合は練習用ユニフォームまたはチームTシャツでもよい。

※スコアラーの服装は、試合着・練習着・学校ジャージまたは、学校標準服とする。

(5) 教員が平服でベンチに入る場合は、緊急時対応（怪我等）以外グラウンドに出ることができない。（ノック等でグラウンドに出る場合はユニフォームを着用する）

(6) 試合中の控え選手のグラウンド内でのウォームアップは、バッテリーを含む4名以内とし、キャッチボールのみ認める。（ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球等禁止）ただし、攻守交代時に限り、ファウルグラウンドで外野の方向へランニングすることを認める。

(7) まとまった応援はベンチよりも外野側で行うこととする。

※試合前後に両校が整列して挨拶をする際、両校が同時に礼をかわせてするようお願いします。

※4 回終了時及びタイブレーク方式前のグラウンド整備のときは、整備係の危険防止や熱中症予防の観点からベンチ内で待機し、給水を十分にとってください。